

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ガザ地区での安定的な食料確保と自給率の向上、環境保全と緑化
(2) 事業内容	<p><u>1 若手農業技術者の育成</u></p> <p>(1) 農学部を5年以内に卒業した若手技術者20名を対象にした10ヶ月間の研修4月1日より開始。8月9日までに390時間を実施した(理論189時間、実技201時間)。計画通り実施中。</p> <p><u>2 篤農家および周辺農家の技術向上</u></p> <p>(1) ガザ地区北部地域の農家20名を対象にした3ヶ月間の研修を4月14日から開始して7月11日に終了。合計149時間を実施。(理論76時間、実技73時間)。計画通り実施中。8月26日より中部、11月21日より南部で研修を実施予定。</p> <p><u>3 育苗活動を通じた農地復興の促進</u></p> <p>(1) 野菜および果樹用育苗温室2棟(各1ドナム)を建設。 (2) 野菜苗木220,600万株を生産して、小規模農家や紛争被害を受けた206農家へ配布。 (3) 樹木苗木を小規模農家、紛争被害を受けた農家、家庭210軒へ403本を配布。</p> <p><u>4 現地 NGO の能力強化</u></p> <p>(1) 現地農業 NGO のプロジェクト管理・運営能力確立・強化および人材育成を実施。 (2) 現地 NGO と共同で事業モニタリング・評価を実施。</p> <p><u>5 家庭雑排水再利用</u></p> <p>(1) 9農家に家庭雑排水処理設備を設置と活動モニタリングを実施。</p> <p><u>6 テンシオメーター使用の普及</u></p> <p>(1) ガザ北部、中部、南部におけるテンシオメーター使用に関する農家ニーズ調査を実施。 (2) テンシオメーター使用農地に作付ける作物および防虫ネットに関するニーズ調査実施および作物・防虫ネットを配布。</p>
(3) 達成された効果	別紙参照
(4) 今後の見通し	<p>本中間報告書に基づき今年度の全体活動成果をプロジェクト内でいったん整理し、今後の活動方針の見直し作業を行う計画ではあるが、各活動の基本的な計画(見通し)は下記のとおりである。</p> <p><u>1 若手農業技術者の育成</u></p> <p>・現在実施中の研修を計画とおり継続していき、来年1月下旬に</p>

10ヶ月間の研修を終了する計画。

2 篤農家および周辺農家の技術向上

- ・ 8月26日から11月14日までガザ中部にて第2期農家研修、11月21日より来年2月14日までガザ南部にて第3期農家研修を実施する計画。
- ・ 各研修後の農家研修生の営農状況に係るモニタリングを順次実施する計画。

3 育苗活動を通じた農地復興の促進

- ・ 農家ニーズ調査結果に基づいて育苗活動を継続していく計画。
- ・ 接木技術と苗木生育（養生）環境の確立を行う計画。
- ・ 裨益農家の営農状況に係るモニタリングを実施する計画。

4 現地 NGO の能力強化

- ・ 各活動の担当現地スタッフに現在までの活動成果と課題、今後の活動計画について整理させ、日本人専門家が適宜必要な指導を行う計画。

5 家庭雑排水再利用

- ・ 9月1週目に全ての設備設置と稼働試験を実施する計画。
- ・ 9月2週目からは現地スタッフと現地水専門家が裨益農家へ施設使用方法などに関する研修を実施する計画。
- ・ 研修実施後は施設稼働状況のモニタリングと排出される家庭雑排水および農地の土壌サンプリングを実施して、裨益農家へ適宜技術指導を行う計画。

6 テンシオメーター使用の普及

- ・ テンシオメーターの配布を継続し、裨益農家の適宜モニタリングを実施して、技術指導および営農状況の調査を実施する計画。